

## 南アルプス・鋸岳 ～晩秋の静かな山旅～

平成 16 年 11 月 23 日

酒井 利直

11 月下旬の山選びは雪や天候のことを特に考えるのでいつもギリギリになってしまう。今回も色々迷ったが、天気が良さそうだということで鋸岳に行くことにした。鋸岳 2,685m

仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳が聳える南アルプス北部では高さで目立つ山ではない。しかしその異様なまでにギザギザな稜線は、遙か昔から気になるものではあった。一方脆い逆層の岩場や独立峰としての風格の欠如が、中々この山に向かう気を起こさせなかった。今回会社の同僚の宮本君と山を物色している時「瓢箪から駒的」にフッと鋸岳行きが決まってしまった。～晩秋の一時をかなりのアルバイトに費やすのも悪くはないと思いながら～

実際、誰一人として会うことのない少静かな山旅は味わい深いものであった・・・

### 11 月 20 日 (土曜日) 快晴 曇

午前 6 時西東京市の酒井宅を M 車で出発。相模湖あたりで曇っていた空は勝沼を越えると、快晴に変わった。正面に新雪を冠った北岳が前山の上に一段と聳えて見える。「ハヶ岳パーキング」で朝食。頂上に薄っすら雪を冠った甲斐駒ヶ岳が手に取るように近く見える。鋸岳はその右隣だがどうも稜線の一突起の様で山梨側からの景色はぱっとしない。「いっそ新雪を踏みに仙丈ヶ岳へでも行くか？」などと言いながら杖突峠・高遠経由で、戸台口に到着。多少の逡巡はあったものの矢張り計画通りに鋸岳に向かうことにする。戸台口の駐車場には 2, 3 台の車が停まっているのみだ。

午前 10 時 出発。出発して間もなく犬を連れた小父さんに会う。小父さんは僕らのヘルメットを見ながら「鋸かね。この前鋸岳に行った人が遭難してまだ見つからないよ。ほら、そこに車が残っていたらう。まあ、気をつけて・・・」と言って下っていった。

今日の M 君は体調がいつもより良い様で、広い川原をドンドン飛ばしていく。

午後 0 時 角兵衛沢出合い到着。鋸岳の標識がある。ここで戸台川を渡渉するのだが、酒井はぬめった苔付の石に足を滑らせ流れですっかり濡れてしまった。

濡れた服を絞ったりして少し時間を費やしたが「岩小屋」での焚き火を当てにして角兵衛沢添いの道を辿り始める。ところが直ぐに踏み跡が、分からなくなり少しガレ沢辿って 20 分程して林の中の踏み跡に出会った。これを「道」と言うのだろうか？ 踏み跡は落ち葉に埋もれ直ぐに見失いそうだ。風雨で脱色してしまった赤標識を求めてひたすら上を目指す。時々近くの沢筋から獣のうめき声が聞こえる。カモシカだろうか？ あるいは熊かもしれない。(角兵衛沢の入り口には熊の糞が結構あった・・・)

いずれにしる滅多に出来ない人間に警告を発している様だ。

午後3時30分 鋸岳頂上(第一高点)から続く岩壁の南端部にある「岩小屋」(標高2,050m程度)に付く。これは岩小屋といっても岩の窪み程度なのだが、奥には清水が滴りテントが2つ3つ張れる平地がある格好の宿泊場所だ。ここを予定通り今夜の宿泊地として盛大な焚き火をして濡れたものを乾かす。

やがて雲が垂れ込めてきたが、中央アルプス千畳敷のホテルの灯がキラキラと輝くのが見えた。美味しい岩清水と焚き火の一時だった。

## 11月21日(日曜日) 快晴

午前5時30分 起床 星が空一面に輝いている。濡れたタオルは板の様に凍っている。

午前6時30分 明るくなり出発

踏み跡は角兵衛沢の右岸すなわち大岩壁に近いところを通っているが岩壁からの落石が少し気になるところだ。ザレは凍っているので少しは歩きやすいとはいえ、不安定な道である。8時30分角兵衛のコル到着。コル下にテント二張り程の平地があるが、コル自体は狭い。コルから頂上へ向かう道は稜線上にあるのだが、稜線の南側は100m程垂直の岩壁となり角兵衛沢に落ちている。暫く登ったところで「地面は凍っているし、結構高度感があるから降りにはザイルを出そう」と考えているとM君が「ザイル、出しましょう」と言ってきた。そこで躊躇なくザイルを出し、スタカット・コンティニューアスを交えて頂上へ向かう。午前10時頂上到着。甲斐駒ヶ岳・北岳・仙丈ヶ岳が一望だ。北岳・仙丈ヶ岳の頂上は雪を冠りまぶしく白い。北には八ヶ岳連峰が黒々と聳えている。デジカメを家に忘れたので携帯電話で写真を撮るが今ひとつだ。(右は頂上から見た仙丈ヶ岳)

頂上から角兵衛のコルへの降りもスタカット・コンテを交えてゆっくり降りる。

コルからは登ってきた道を辿り、正午前に大岩の岩小屋に戻



る。途中大岩壁の上から融けたツララが落ちてくる乾いた音が時々響く。岩小屋でテントをたたみ午後0時半下山開始。左は標高約1,900mのガレ場である。降りの方が視界を広く取れるので「道」の発見は容易だ。午後3時前戸台川に着く。ここで渡渉点を探した結局良い場所はなく、少し水に浸かることを覚悟で渡河する。ところが酒井は又ぬめった石で滑り必要以上に濡れてしまう。「我ながら学習効果のない話だ」と思いながら、戸台口への長い道を歩く。薄暗くなった頃漸く車に戻った。午後4時半である。今日は標高差約600mを登

り、1,600mを降ったことになる。中々足腰の鍛錬になる10時間のアルバイトだった。



あとがき

飛び石連休にも係わらず誰にも会わない静かな山旅だった。

今回登攀具としては、ザイル・若干のカラビナ・アイゼンを持っていったが、アイゼンは使わず。

角兵衛のコルから鋸岳（第一高点）の登りは、ホールドがしっかりしているので通常はザイルは不要と思うが高度感は結構ある。その時々で判断でザイルを使えば良いかと思った。